



SDGs債 エンゲージメント対談企画



公益財団法人
自動車リサイクル促進センター
Japan Automobile Recycling Promotion Center / JARC



Gunma Prefecture

群馬県



いっしょに、明日のこと。
Share the Future



SMBC日興証券

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

近年、SDGs債（サステナブル債）市場は急速に拡大しており、企業や自治体が持続可能な社会の実現に向けた資金調達手段として積極的に活用しています。こうした状況を背景に、投資家と発行体によるエンゲージメント対談の意義がますます高まっています。投資家は、SDGs債の発行によって本当に社会や環境にどのようなインパクトがもたらされるのか、資金使途の妥当性や情報開示の透明性などを重視しています。エンゲージメント対談を通じて、発行体の取り組みや今後の方針について直接意見交換を行うことで、信頼関係の構築やSDGsへの真の貢献度を確認することができます。一方、発行体にとっても投資家との対話は、期待や課題認識を把握し、資金調達戦略やプロジェクト運営の改善に役立てる貴重な機会です。

今回は、「ぐんま5つのゼロ宣言」実現をはじめ、環境問題の解決に向けて2023年から3年連続でグリーンボンドを発行している群馬県と、日本の自動車リサイクルシステムの中心的役割を担い、債券投資家でもある公益財団法人自動車リサイクル促進センター（以下、JARC）による対話を実施しました。

【対談概要】

10月31日に、群馬県庁32階「官民共創スペースNETSUGEN」にて実施。群馬県からは関根則子総務部長、JARCからは小宮健一常務理事（CFO）が参加、進行役はSMBC日興証券（株）松元第一公益法人営業部長が務めた。

自動車リサイクル制度の運営に貢献するJARC、SDGs債への投資を通じて持続可能な社会の実現を目指す

松元 本日はありがとうございます。最初に、小宮常務理事より、貴財団の概要をご紹介頂けますか。

小宮常務理事 本日はこのような貴重な機会を頂戴しまして、心より感謝を申し上げます。本財団は自動車リサイクルの様々な課題に対応するために、自動車業界の横断的な機関として2000年に設立されました。その後、2005年1月に施行された自動車リサイクル法に基づき、我が国の自動車リサイクル制度がスタートしました。本財団は自動車リサイクル法に定められた指定法人として、自動車ユーザーからお預かりしたリサイクル料金と自動車のデータを一元的に管理することにより、自動車が使用済となったときに確実にリサイクルされる仕組みの運営に貢献してきました。本制度においては自動車購入時に事前にリサイクル料金をお預かりしますので、自動車が使用済となるまでの間、本財団が運用を担い、運用資産は9月末時点で8,910億円に上ります。

その他、各自治体にお取り組みいただいている不法投棄、不適正保管車両の撤去や離島で発生した使用済自動車の海上輸送などへの支援といった自動車リサイクルのセーフティネットとしての役割も果たしています。また、自動車リサイクルの促進に関する調査・研究、普及・啓発なども行っており、特に、将来の自動車ユーザーである子どもたちへの学習機会の提供にも力を入れております。毎年、小学生を対象とした「自動車リサイクルの現場見学会」や「クルマのリサイクルに関するポスター、標語の作品コンクール」を開催しています。



JARC:小宮常務理事(CFO)

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

松元

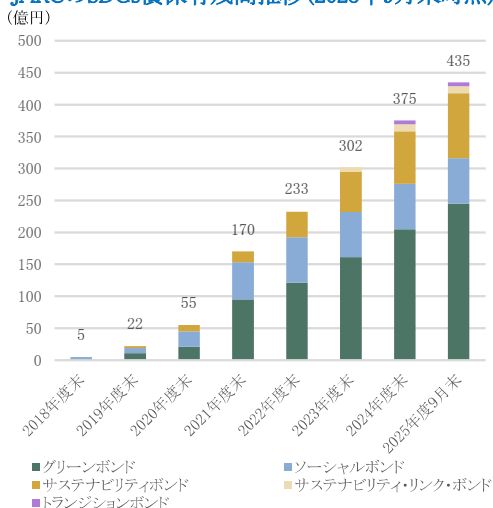
ありがとうございます。2018年からSDGs債への投資を開始されており、直近7月には群馬県発行のグリーンボンドにも投資をされるなど、SDGs債への投資を継続しておられますが、その投資方針と実績について伺えますか。

小宮常務理事

本財団は、自動車リサイクルの促進を通じて、CO2排出や気候変動、資源の枯渇、ごみ問題といった様々な課題の解決に貢献すると共に、国民のリサイクルや環境に対する意識を高める啓発活動にも積極的に取り組んでいます。このような本財団の存在意義や活動は、各自治体様がSDGs債を発行される趣旨や目的に合致していることから、リサイクル料金の運用において、SDGs債への投資を積極的に行っております。これにあたり、3つの投資基準を設定し「環境や社会に対する改善効果」、「環境省のガイドライン等への適合及び第三者機関による評価」、「資金使途の明確さ」の3つを重視しております。これまでの投資実績は、2018年からSDGs債への投資を開始し、資金運用の原資であるリサイクル料金の性質を鑑みて、グリーンボンドやサステナビリティボンド等に積極的に投資をしております。2025年9月末時点で、投資を行った発行体は49発行体まで増加し、SDGs債の投資残高は435億円にまで達しており、これはさきほど申し上げた運用資産の約5%に相当します。将来的にはこの割合を10%程度にまで引き上げることを目指し、引き続きSDGs債を取得していきます。

また、SDGs投資を推進する投資家の中でも先駆的な取り組みとして、2020年以降、公共セクターにおける発行体とのエンゲージメント企画を進めて参りました。これまで8回、様々な発行体とのエンゲージメント企画を実施するとともに、エンゲージメント企画を通じ、多様な角度でSDGs分野に関する考えや取り組み内容を発信して参りました。

JARCのSDGs債保有残高推移(2025年9月末時点)



2025年度(4-9月)に投資した主なSDGs債

発行体	種別	金額
群馬県	グリーンボンド	5億円
埼玉県	サステナビリティボンド	5億円
千葉市	グリーンボンド	5億円
徳島県	サステナビリティボンド	5億円
地方公共団体金融機構	グリーンボンド	5億円
共同発行団体	グリーンボンド	5億円
鉄道建設・運輸施設整備支援機構	サステナビリティボンド	5億円
都市再生機構	サステナビリティボンド	5億円
民間都市開発推進機構	グリーンボンド	15億円

松元

ありがとうございます。事業内容・資金管理の両面から、SDGsの達成に向けて取り組まれていることがよくわかりました。では、本日のテーマでもある群馬県のグリーンボンドについて、貴県の概要を含めて、関根総務部長、改めて教えていただけますでしょうか。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

豊かな自然と産業が共生する群馬県、環境課題対応に資するグリーンボンドを発行

関根総務部長

本日は貴重な対談の場を設けていただきましてありがとうございます。またJARCさんにおかれましては、群馬県のグリーンボンドに対する投資・投資表明をいただいております。この場をお借りして改めて感謝申し上げます。ありがとうございます。

まず、群馬県のご紹介をさせていただきたいと思います。群馬県は、首都圏に位置し、利便性の高い交通網を有しており東京からも近いですが、豊かな自然にも恵まれた地域です。代表例は、日本最大級の高層湿原である尾瀬国立公園です。国の特別天然記念物やラムサール条約の登録湿地に指定されており、手つかずの自然が厳重に保護されていることから、美しい高山植物や多様な野生動物が生息しております。

また、産業については、長い歴史のなかで培われているものでありますが、モノづくりが産業の重要な柱になっております。特に自動車関連産業が多く集積しており、工場立地件数は全国トップクラスを長年維持しております。



群馬県：関根総務部長

さらに、観光という面から申し上げますと、草津温泉をはじめ、伊香保温泉、四万温泉、みなかみ温泉等数多くの温泉地があります。コロナ渦で減少した観光客はかなりもどってきており、インバウンドもずいぶん増えている感触です。地理的な要素といたしますと、災害が少ないということが一つの特徴でして、大規模な地震が少なく、冒頭で申し上げました交通網が発達しているというところ、天候に恵まれているということもあり、移住希望地ランキングでは昨年度全国1位となれたというところが大きな特徴となっていると考えております。

人気の高い群馬県ブランドの温泉

- 群馬県の温泉は泉質も施設も種類が豊富です
- 全国的にも人気が高く、群馬県の観光の目玉として抜群の集客力を誇り、大きな経済効果をもたらしています

第38回にっぽん温泉100選

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	道後	愛媛県
3	下呂	岐阜県
4	別府八湯	大分県
5	有馬	兵庫県
12	伊香保	群馬県
19	万座	群馬県
32	四万	群馬県
	みなかみ18湯	群馬県

出典：(株)観光経済新聞社

みんなで選ぶ 第16回温泉大賞

総合順位	温泉地名	所在地
1	草津	群馬県
2	大洞	栃木県
3	鬼怒川	栃木県
6	伊香保	群馬県
前頭	万座	群馬県
前頭	四万	群馬県

出典：BIGLOBEによるサイト上のWebアンケート調査(期間は2024年12月24日～2025年2月13日)

群馬県の自然

- 群馬県は山林が県土の約3分の2を占め、豊かな自然にあふれています
- 県内では川、滝、湖沼、湧水など、さまざまな水の形に出会うことができます。山々は古く『万葉集』にも詠みこまれ、深田久弥著の『日本百名山』では県内から11の山が選ばれています
- また、日本を代表する美しい風景と貴重な生態系を有する尾瀬は、全域が国立公園の特別地域であり、その核心部は特別保護地区として、国の特別天然記念物に指定されています

群馬県の歴史遺産

- 富岡製糸場は、明治5(1872)年に日本初の官営機械製糸工場として設立されました。平成28年に、世界遺産に登録されるとともに、国宝にもなりました
- 古墳時代、ヤマト政権の東国支配の拠点として繁栄していた上毛野。群馬県には1万基以上の古墳があるといわれており、古墳の数は全国で有数。太田市「天神山古墳」は、全長210mで、東日本で最大の方後円墳

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

続いてグリーンボンドについてです。群馬県は「ぐんま5つのゼロ宣言条例」を制定しておりまして、いわゆるグリーンイノベーションに向けた取り組みを進めております。脱炭素社会の実現や、気候変動への適応に必要な資金を調達するという目的で、グリーンボンドを発行しております。

また、グリーンボンドの発行を通じまして県内外のさまざまな方々に群馬県の実情分野への取り組みを知っていただきたい、多くの皆様と一緒に、環境に配慮した取り組みを推進していきたいと考えております。本県の事業、取り組みに多くの投資家の皆様からご賛同いただいております。令和5年度には全国の地方債グリーンボンドにおいて過去最多となる213件の投資表明を頂戴いたしました。これ以降も多くの投資家の皆様から引き続き投資表明をいただいております。また、JARCさんをはじめ、継続的にご投資いただく方も多く、投資家の皆様のSDGsへの貢献、SDGs投資への関心の高まりを実感しているところです。

松元

ありがとうございます。貴県のSDGsへの取り組みや周知、IR等を踏まえた投資家への訴求が奏功し、JARCさんをはじめ様々な投資家の皆様から賛同いただけていると認識しております。また、お話しにございました、豊かな自然に恵まれている点や日照時間の長さが貴県の魅力の1つだと思いますが、それら魅力を活かしたグリーンイノベーション、環境と経済の好循環の創出に向けた取り組みについて教えてください。



日興:松元第一公益法人営業部長

群馬県は「ぐんま5つのゼロ宣言」で、持続可能な社会と幸福度向上を目指す

関根総務部長

群馬県では、「新・群馬県総合計画」を令和2年に策定しておりまして、2040年までに群馬県が目指す姿を示すビジョンと、その実現に向けた重点的な取り組みを定めております。その計画の中で、「地域経済循環の形成」を重点施策として位置づけており、自然との共生を実現するための資源生産性の高い地域社会を創ることを目指しております。主な施策といたしますと、今回のグリーンボンド発行の背景ともなっております、「ぐんま5つのゼロ宣言」があります。令和元年に全国で初めて、持続可能な社会を構築するとともに県民の幸福度を向上させる目的で、自然災害による死者「ゼロ」、温室効果ガス排出量「ゼロ」、災害時の停電「ゼロ」、プラスチックごみ「ゼロ」、食品ロス「ゼロ」という5つの目標を2050年までに達成するという内容になっております。

2050年に向けた「ぐんま5つのゼロ宣言」

宣言1	自然災害による死者	「ゼロ」
宣言2	温室効果ガス排出量	「ゼロ」
宣言3	災害時の停電	「ゼロ」
宣言4	プラスチックごみ	「ゼロ」
宣言5	食品ロス	「ゼロ」

小宮常務理事

ありがとうございます。群馬県さんの特徴やPRポイントとともに他の都道府県に先駆けて、循環型社会の実現に向けて様々な取り組みを実施されていることがよくわかりました。先程仰られた5つの「ゼロ」宣言について、本財団とも関連が深いと思われます温室効果ガス排出量「ゼロ」やプラスチックごみ「ゼロ」について、もう少しご説明いただけますでしょうか。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

関根総務部長

まず、温室効果ガス排出「ゼロ」の取り組みといたしましては、「群馬県のポテンシャルを最大限生かした再生可能エネルギー導入による再エネ比率上昇」に取り組んでおります。群馬県は日照時間が長いという特性がありますのでこれを生かして、公共施設への太陽光発電設備の率先導入に取り組んでおりますし、また、住宅や工場・事業場への導入についても推進しております。

群馬コンベンションセンター太陽光発電所



次に、プラスチックごみを削減するための施策といたしましては、「ぐんまプラごみ削減取組店」として登録する制度を施行しております。令和5年8月に創設したものになりますが、使用済みのペットボトル、食品トレイ回収などの取り組みを行う店舗について登録し、事業者の取り組みを広く紹介するものです。この取り組みにより、県民のライフスタイルの変革を期待できるものと考えております。また、民間企業さんと連携いたしまして県庁舎などの県有施設4箇所にマイボトル用給水機を設置する取り組みも行っております。こうした取り組みを通じまして、使い捨てプラスチック製品の使用抑制、プラスチックごみの削減を推進しております。

マイボトル用給水機の設置例



新たな制度「資源回収インセンティブ制度」による自動車の資源循環拡大

小宮常務理事

ありがとうございます。具体的なお取り組みの内容がよくわかりました。自動車リサイクルにおいても、持続可能な社会の実現のために、使用済となった自動車をより質の高い資源として再活用していくことは今後の重要なテーマの一つであります。

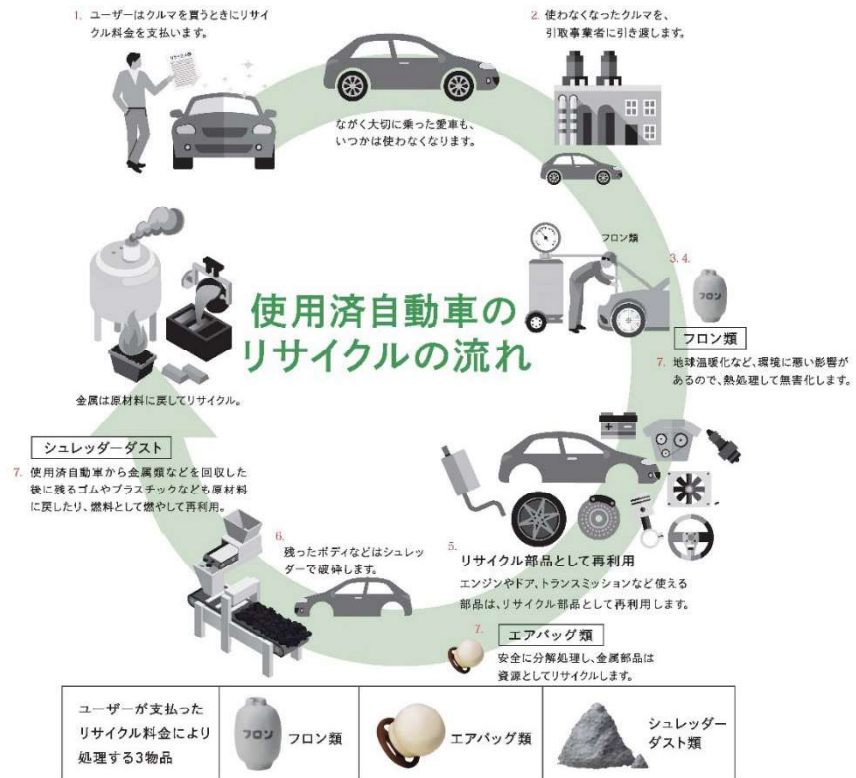
また、自動車のリサイクル率は日本の他の製品と比較してもトップクラスで、自動車全体の約99%が資源や熱エネルギーとして再利用されています。こう申し上げますと満点に近いように感じられるかもしれませんが、まだ課題が残っております。まず、使用済自動車からは再利用できる部品を回収いたします。この段階で本来であるならば再利用できるプラスチックやガラスを取り外せればよいのですが、技術的・コスト的にも難しいために、鉄・銅・アルミなどの金属は回収できても、最終的にシュレッダーダストには多くのプラスチックやガラスが残ってしまいます。

そのシュレッダーダストの多くは、焼却して熱エネルギーとして再利用するわけですが、焼却してしまいますと、資源の循環が終わってしまいますし、またCO2の排出に繋がってしまいます。現在、こうした課題への取り組みとして、プラスチックとガラスの資源循環の促進につなげていくために、これらの回収に積極的に取り組む解体事業者インセンティブを与えて、シュレッダーダストを少なくしていこうという「資源回収インセンティブ制度」を設計構築することを自動車メーカーや国が中心となって進めております。

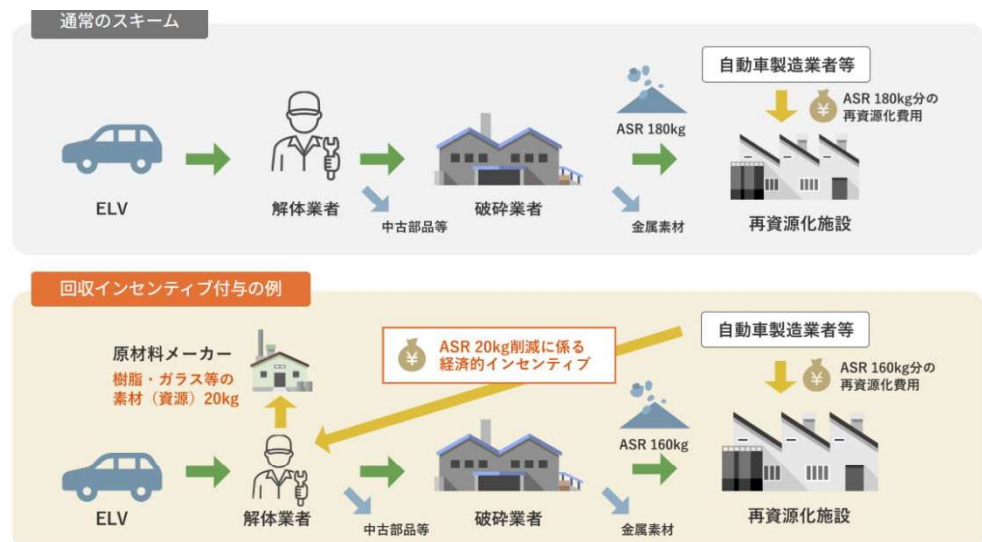
エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

本財団は事前回収できたプラスチックやガラスの重量をしっかりと管理できるように、自動車リサイクルシステムの改良や実証実験への支援など、本制度の着実なスタートに向けて協力をしております。

使用済自動車のリサイクルの流れ



資源回収インセンティブ制度概念図



それでは、群馬県さんに更にお聞きしたいと思います。今年6月にインパクトレポートを公表されました昨年度発行のグリーンボンドについて、実際の資金充当事業や効果について、改めて確認させてください。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

群馬県の自然と未来を守る、グリーンボンドで持続可能な地域づくりを推進

関根総務部長

昨年度調達させていただきましたグリーンボンドの総額は150億円になります。資金充当事業といたしましては、県有施設等の省エネ化に約9億円、林道整備に約3億円、尾瀬国立公園等の環境整備に約0.1億円、鳥獣被害対策に約2億円、土砂災害防止施設の整備に約76億円、河川改修や浸水対策・ダムの適正管理に約50億円、無電柱化推進に約10億円となっています。具体的な例を申し上げますと、県有施設のLED化の推進による消費電力の削減や温室効果ガス排出量の削減、林道整備や尾瀬国立公園等の環境整備による二酸化炭素吸収源となる森林の植生保全などが挙げられます。

令和6年度のグリーンボンドの充当事業



小宮常務理事

ありがとうございます。昨年度のお取り組みについてよくわかりました。本財団は、今年度7月に3回目の発行となりましたグリーンボンドに投資をさせていただきましたが、今回の発行による充当予定事業の中で群馬県さんとして特に重要と考えているものをご紹介しますでしょうか。

関根総務部長

今年度7月のグリーンボンドにご投資いただきありがとうございます。JARCさんは群馬県がグリーンボンドを初回に起債した

尾瀬国立公園

2023年から継続してご投資頂いておりまして、重ねて御礼申し上げます。群馬県といたしましてはどれも重要な施策ではありますが、例えば、尾瀬国立公園等の環境整備をあげさせていただきたいと思います。尾瀬国立公園は日本を代表する自然景観をもっておりますし、また、多くの観光客の皆様に来ていただいております。



エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

ここでの環境整備は、生物多様性の保全や景観の維持に直結しており、自然環境の持続可能な利用を図るためには欠かせない取り組みであると考えております。特に、希少な動植物の生息地となっておりますので、[尾瀬国立公園、県立赤城公園覚満淵の木道の更新](#)これを保護し、自然環境を次世代に引き継ぐことが重要なことと考えております。さらに、尾瀬国立公園の環境整備は、地域経済の活性化にも寄与しております。観光資源でもありますし、この価値を高めていくことで、地域への訪問者数が増加いたしますと、地元経済への波及効果が期待できるということとも言えると思います。持続可能な観光を推進するというのが、地域コミュニティの発展にもつながっていると考えており、様々なところでメリットがありますので引き続きこの取り組みを進めてまいりたいと考えております。



私からもご質問させていただければと思います。改めまして、群馬県グリーンボンドに投資いただきました理由をご教示いただけますでしょうか。

SDGs投資に際しては、資金使途の明確さ・インパクト・事業の社会的意義を重視

小宮常務理事

先ほど申し上げました通り、本財団は「資金使途の明確さ」を重視しております。それに加えて、環境・社会に対する改善効果やインパクトが期待できること、対象とされる事業の社会的意義が大きいことなどが投資選定の大きな要素となります。その観点で群馬県さんは、インパクトレポートにて充当事業の詳細や金額はもちろんのこと、その効果についても定量的に示されているため、群馬県さんがグリーンボンドの発行により調達した資金の使途についてしっかりと確認することができました。

また、冒頭お話ししました通り、本財団の運用の原資は、自動車ユーザーからお預かりしております「リサイクル料金」であります。このリサイクル料金は、「エアバッグ類」「フロン類」そして先ほどご説明しました「シュレッダーダスト」の適正処理に要する費用等で構成されておまして、自動車を適切に処理し、環境や資源を守るために欠かせない大切なものであります。これを原資とした運用につきましても、環境課題等の解決に資する形で実施したいという思いからSDGs投資を促進しておりますが、群馬県さんのグリーンボンドは、美しい尾瀬を守るための整備や再生可能エネルギー設備導入による温室効果ガスの削減等に活用されており、本財団の目指すものに合致していると判断しました。

また、SDGs債は発行してそれに投資するというだけではなく、環境問題や社会問題等を解決することが最終ゴールになるかと思います。我々はその点を重要視し投資先を選定しております。投資家としての希望になってしましますが、SDGs債を発行いただく段階で、充当事業ごとに想定される環境改善効果などの情報が開示されていると、より有用な投資先選定の判断材料になると考えておりますので、引き続き環境改善効果の開示について、お取り組みいただけますと幸いです。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

関根総務部長

環境改善効果の開示というところは、投資家の皆様が最も重視されている点であると認識しております。群馬県としても透明性を高め、群馬県のサステナブルな取り組みが多くの投資家様にご賛同いただけることを目指しております。

具体的な取り組みといたしましては、グリーンボンドの発行の段階におきまして、「グリーンボンド・リーフレット」を作成しております。これは群馬県が進める環境分野の取り組みや充当予定事業を掲載したものになりまして、投資を検討いただく際の参考資料として皆様にお配りしているものです。

また、グリーンボンドで調達させていただいた資金につきましては、

翌年度までに群馬県HPにて資金充当状況のインパクトレポートの開示を年次で行っております。レポートिंगを通しまして、群馬県の充当事業や環境分野への取り組みを投資家の皆様によりご理解いただけるよう、皆様のご意見もいただきながら、必要とされる情報の開示に努めてまいりたいと考えております。

また、群馬県といたしましても、このエンゲージメントを通じて、JARCさんの目指す姿を感じ取ることができまして、このような機関投資家からご賛同いただけていることを本当に嬉しく思っております。そういった意味で冒頭ご説明がございました、「将来の自動車ユーザーである子どもたちへの学習機会の提供」につきまして、少しお話を伺ってもよろしいでしょうか。

群馬県グリーンボンドインパクトレポート



エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

自動車リサイクルを通じて、SDGsへの関心を育む学習機会を提供

小宮常務理事

大きく分けまして2つの柱がございます。1つ目が、事業者への現場見学会でございます。自動車の製造事業者や解体事業者など、自動車リサイクルに係る現場において、小学生が

見て触って聞いて学んでいただく機会を設けております。私も現場に足を運んだことがございますが、山積みされた使用済み自動車ですとか、鉄の塊、取り外された部

現場見学会の様子



品を見ますと、おそらく誰もが勿体ないとか、リサイクルしなければなんということを感じ取っていただけるのではと思います。小学生の皆さんの感性も同様かと思しますので、このような機会がございます。また、その内容を掲載した小学生新聞を合計144万部発行しております。

2つ目は、小学5年生の学習カリキュラムに組み込まれている自動車の工業生産に関わる人々の工夫や努力に

2024年度作品コンクールの表彰式と最優秀賞

ついて、その学びの集大成として、学んだことをポスターや標語に表すコンクールを開催しております。群馬県の小学生



の皆さんからは、合計1,236作品の応募をいただいております、この場をお借りして御礼申し上げます。

他にも、全国の公立小学校2万校への自動車リサイクル漫画図書の寄贈や、小学校向けの出前授業の開催など、自動車リサイクルを通じて、子供たちに循環型社会の実現に向けた取り組みや、SDGsに関する興味を持っていただきたいという願いの下、小学生への理解普及活動を積極的に行っているところです。

出前授業の様子



せっかくの機会でございますので、群馬県さんの若年層に向けた取り組みを教えていただけますでしょうか。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

群馬県は動画配信と移動型学習施設を活用して若年層に環境の大切さと地域の魅力を発信

関根総務部長

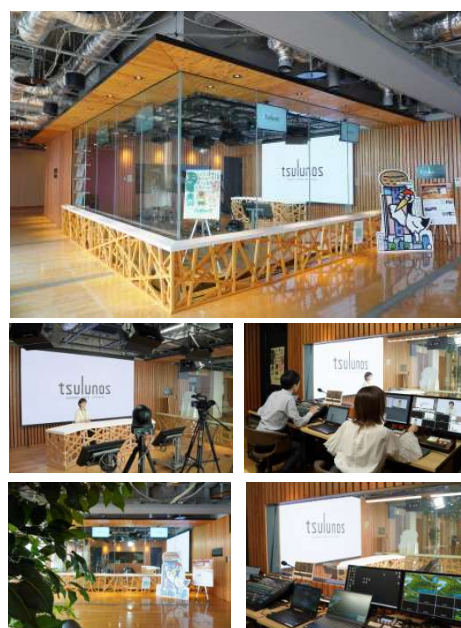
群馬県では、若年層への情報発信と環境意識の向上を目的とした様々な取り組みを展開しています。その中で2つご紹介させていただこうと思います。1つが動画・放送スタジオ、「tsulunos」、もう1つは移動環境学習車「エコムーブ号」の活動になります。

まず、「tsulunos」は、群馬県庁32階にある動画・放送スタジオになります。こちらで撮影・編集した動画をYouTubeやTikTokなどに掲載しまして、若年層等に向けて情報発信を行っています。動画につきましては、県職員が自分で出演や制作に取り組んでおり、経費も抑えながら群馬の魅力を強く発信できるよう工夫しております。

また、TikTokについては、トレンド大賞2024で特別賞を受賞することができまして、こちらも一定の評価をいただいております。環境分野の情報発信については、小学校低学年を対象とした「かんきょうかみしばい ごみをへらそう」や「マイクロプラスチック」に関する動画の配信も実施しております。

次に、「エコムーブ号」のご紹介をさせていただきたいと思います。こちらは、環境教育を推進するための移動型学習施設として運用されております。この車は、県内の学校や地域に出向き、環境問題について楽しく学べるプログラムを提供しております。特に、リサイクルやエネルギーの重要性についての教育を行いまして、次世代を担う子どもたちに環境意識を高めることを目的としております。この取り組みによりまして、未来の持続可能な社会を築くための基礎を形成しております。これらの取り組みによりまして、本県が若年層に対して積極的にに関わり、未来を見据えた教育と情報発信を行うことの例としてご紹介させていただきましたが、これからも、若い世代が地域社会に関心を持って、積極的に参加するための環境づくりを推進していきたいと思っております。

動画・放送スタジオ「tsulunos」と撮影の様子



動く環境教室「エコムーブ号」



環境教室のテーマ

テーマ	対象
私たちの生活と水問題	
テーマ1 家庭から出る水の汚れを調べてみよう	小4～6年生
テーマ2 川や池の水質を調べてみよう	小6・中学生
きれいな大気を守るために	
テーマ3 自動車から出るガスの汚れを調べてみよう	休止中
ごみの減らし方とリサイクル	
テーマ4 ごみは大切な資源	小4～6年生
テーマ5 リサイクルについて考えよう	小6・中学生
地球の温暖化について	
テーマ6 省エネ電球から地球温暖化について調べてみよう	小4～6年生
テーマ7 発電から地球温暖化を考えよう	小6・中学生
SDGs	
テーマ8 SDGsってなあに？	小4～6年生

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

- 小宮常務理事 ありがとうございます。動画配信サービスや移動環境学習車での出前授業など、若年層に伝わりやすい方法で幅広くお取り組みされていることがよくわかりました。
- 松元 ありがとうございます。機関投資家であるJARC、発行体である群馬県、立場の違いこそありますが、より良い未来の醸成のために、同じ方向に向かってそれぞれの取り組みを進めていращやることがよくわかりました。
- さて、SDGsマーケットについては、成熟期に入りつつある中ですが、SDGsマーケットについて期待することやビジョンについて御両名にお伺いできればと思います。まずは関根総務部長お願いいたします。

発行体・投資家双方の積極的な情報発信と連携強化による社会貢献の拡大とSDGs債券市場の活性化

- 関根総務部長 群馬県としましては、環境分野への投資に向けた資金調達は継続していかなければならないと思っておりますし、また群馬県の取り組みを広く知っていただき、皆様に応援いただくための機会にもなると考えておりますので、今後もグリーンボンドを活用していきたいと考えております。そのためにも、充当事業をはじめとした積極的な情報開示や投資家の皆様との意見交換を引き続き重視していきたいと考えております。
- 松元 関根総務部長ありがとうございました。小宮常務理事いかがでしょうか。
- 小宮常務理事 本財団のSDGs投資につきましては、日経ビジネスや週刊ダイヤモンド等のメディア媒体への記事掲載、発行体や本財団ウェブサイトでの投資表明、そして発行体との個別IRや本日のようなトップマネジメント同士のエンゲージメント等、公的機関におけるSDGs投資のトップランナーとして、積極的な取組発信を行っております。これは、運用の原資となっているリサイクル料金を預託した自動車ユーザーの皆さんにも、自分たちがお支払いになったリサイクル料金がSDGs投資という形で社会貢献につながっていることをご理解いただきたいという想いによるものであります。
- また、これらの発信によって、他の財団法人等がSDGs投資を実施するきっかけとなり、SDGs債券市場がより活発になることに期待しております。

最後に

- 松元 御両名様ありがとうございました。それでは最後に、今回のエンゲージメントの締めくくりとして、一言ずつお願いできますでしょうか。
- 小宮常務理事 本財団は、2020年度から積極的に発行体とのエンゲージメントを進めておりますが、直接対話することで、多くの気づきを得ることができております。本日の群馬県さんのお話の中でも、グリーンボンドの用途や効果だけでなく、本財団の取り組みとも共通するプラスチックごみ「ゼロ」に向けた取り組みや「tsulunოს」での情報発信など、SDGsに関する取り組みや考え方もお聞きすることができ、本財団の今後の取り組みの糧となる内容となりました。

エンゲージメント対談企画 ～自動車リサイクル促進センター×群馬県～

これからもこのようなエンゲージメントを積極的に進めることで、良い緊張感をもって、発行体と投資家がお互いに切磋琢磨できるのではないかと考えております。発行体と投資家とのエンゲージメントを充実させることが、SDGs債マーケットの質の向上に寄与すると考えております。また、発行体と投資家という関係だけでなく、お互いの環境取り組みや情報発信から刺激を受け、持続可能な社会の実現という共通の目標に向かっていくことができれば非常に嬉しく思います。本日は大変ありがとうございました。

関根総務部長

群馬県はものづくり、特に自動車関連産業の割合が高い県でございますので、そういった観点からもJARCさんの事業については本県としても非常に関心が高い取り組みであり、貴重なお話を本日伺いできたと思います。また、リサイクルや環境学習の取り組みは本県の掲げる環境と経済の好循環の創出と非常に近いものがあると考えております。今後ともグリーンボンドの発行やさまざまな環境分野の施策を通じまして、持続可能な社会の実現に向けた取り組みを一緒になって進めていけたらありがたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。

松元

小宮常務理事、関根総務部長、ありがとうございました。SDGs分野において先進的な取り組みをされている御両名様による本日のこのご対談がSDGsマーケットの今後の更なる発展に繋がることを確信しております。また証券会社としても今後のSDGsへの取り組みについて改めて考えさせられる貴重な機会となりました。本日はお時間をいただきありがとうございました。



ご留意事項

金融商品取引法第37条(広告等の規制)にかかる留意事項

本資料は、法制度/税務、自社株評価、相続/事業承継、株主対策/資本政策、オフアリング、M&A/IPO、年金/保険等の諸制度に関する紹介や解説、また、これに関連するスキーム等の紹介や解説、およびその効果等に関する説明・検証等を行ったものであり、金融商品の取引その他の取引の勧誘を目的とした金融商品に関する説明資料ではありません。記載の内容にしたがって、お客さまが実際にお取引をされた場合や実務を遂行された場合の手数料、報酬、費用、その他対価はお客さまのご負担となります。なお、SMBMBC日興証券株式会社(以下「当社」といいます)がご案内する商品等へのご投資には、各商品等に所定の手数料等をご負担いただく場合があります。たとえば、店舗における国内の金融商品取引所に上場する株式等(売買単位未満株式を除く)の場合は約定代金に対して最大1.265%(ただし、最低手数料5,500円)の委託手数料をお支払いいただきます。投資信託の場合は銘柄ごとに設定された各種手数料等(直接的費用として、最大3.30%の申込手数料、最大4.50%の換金手数料または信託財産留保額、間接的費用として、最大年率3.64%の信託報酬(または運用管理費用)およびその他の費用等)をお支払いいただきます。債券、株式等を募集、売出し等または相対取引により購入する場合は、購入対価のみをお支払いいただきます(債券の場合、購入対価に別途、経過利息をお支払いいただく場合があります)。また、外貨建ての商品の場合、円貨と外貨を交換、または異なる外貨間での交換をする際には外国為替市場の動向に応じて当社が決定した為替レートによるものとします。上記手数料等のうち、消費税が課せられるものについては、消費税分を含む料率または金額を記載しています。

本資料は、当社が信頼できると判断した情報源から入手した情報に基づいて作成されていますが、明示、黙示にかかわらず内容の正確性あるいは完全性について保証するものではありません。また、別段の表示のない限り、その作成時点において施行されている法令に基づき作成したものであり、将来、法令の解釈が変更されたり、制度の改正や新たな法令の施行等がなされる可能性もあります。さらに、本資料に記載の内容は、一般的な事項を記載したものに過ぎないため、お客さまを取り巻くすべての状況に適合してその効果等が発揮されるものではありません。このため、本資料に記載の内容にしたがって、お客さまが実際に取引をされた場合や実務を遂行された場合、その期待される効果等が得られないリスクもあります。なお、金融商品の取引その他の取引を行っていただく場合には、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)、または元本を超過する損失を生ずるおそれ(元本超過損リスク)があります。なお、信用取引またはデリバティブ取引等(以下「デリバティブ取引等」といいます)を行う場合は、デリバティブ取引等の額が当該デリバティブ取引等についてお客さまの差し入れた委託保証金または証拠金の額(以下「委託保証金等の額」といいます)を上回る場合があると共に、対象となる有価証券の価格または指標等の変動により損失の額がお客さまの差し入れた委託保証金等の額を上回るおそれ(元本超過損リスク)があります。また、店頭デリバティブ取引については、当社が表示する金融商品の売り付けの価格と買い付けの価格に差がある場合があります。上記の手数料等およびリスク等は商品ごとに異なりますので、当該商品等の契約締結前交付書面や目論見書またはお客さま向け資料等をよくお読みください。なお、目論見書等のお問い合わせは当社各店舗までお願いいたします。また、実際の取引等をご検討の際には、個別の提案書等をご覧いただいた上で、今後の制度改正の動きに加え、具体的な実務動向や法解釈の動き、およびお客さまの個別の状況等に十分ご留意いただき、所轄の税務署や、弁護士、公認会計士、税理士等の専門家にご相談の上、お客さまの最終判断をもって行っていただきますよう、お願い申し上げます。

商号等 SMBMBC日興証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第2251号

加入協会 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本STO協会

(2023年9月30日現在)

©群馬県 ぐんまちゃん



SMBC日興証券